

地域日本語教育 コーディネーター研修 (実践活動報告)

2023年2月7日

東6 蔭木隆

実践報告内容

1. 茨城県の地域日本語教育体制づくり事業
2. 実践活動計画の目的と内容
3. 活動のふりかえり
 - ・地域日本語教育関係者連絡者会議（行政職員対象）
 - ・地域日本語教育関係者連絡者会議（支援者対象）
 - ・秋の支援者養成講座（空白地域対象）
 - ・空白地域の受講者との懇談会
 - ・冬の支援者養成講座
4. 今後に向けて

茨城県地域日本語教育体制づくり事業



県内の在住外国人が、

どこにいても日本語学習の機会が得られる環境と

関係機関の連携体制を構築する。

茨城県地域日本語教育の体制づくり 地域日本語教育コーディネーター

地域で暮らす外国人への日本語学習支援と地域とのつながりづくりのため、
地域特性をふまえ、多様な関係者間の橋渡し、意見調整を行います。

ウメ（県西）エリア担当 内田 ちひろ

- ・地域日本語サークル代表
- ・日本語教師

---メッセージ---

外国ルーツの方が多くなりました。
共に地域に暮らす隣人として
お互い幸せに暮らせるように
皆様と一緒に考え、協働していきたいです。



ヒラメ（県央～県北）エリア担当 仙波 美哉子

- ・地域日本語教育推進員
- ・ひたちなか市国際交流協会副代表

----メッセージ----

地域日本語教育を通して
全ての人が安心して暮らせる地域づくりを
皆さんと考えていきたいです。



バラ（県南）エリア担当 蔭木 隆

- ・国際交流基金
日本語パートナーズ インドネシア派遣
- ・地域日本語ボランティア教室活動中

---メッセージ---

「楽しい」から始まる
地域住民のつながり作りをいっしょに！

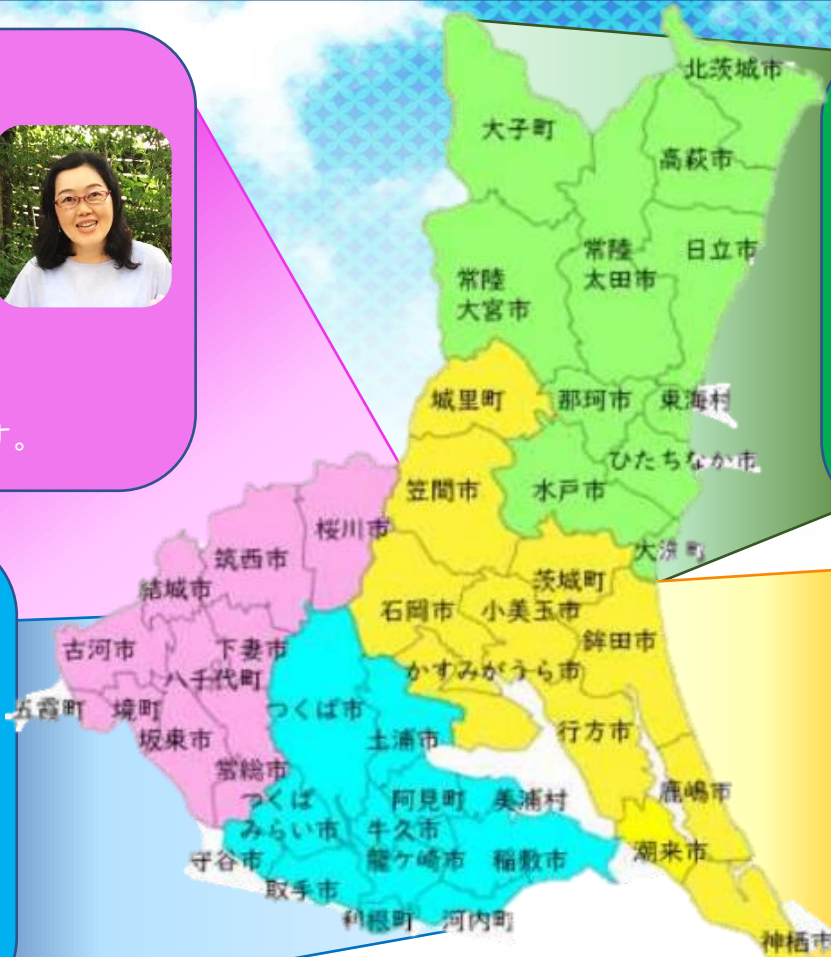


ヒバリ（県央～鹿行）エリア担当 羽鳥 愛

- ・地域日本語教育推進員
- ・多文化共生グループおみたまじん代表

----メッセージ----

外国人と日本人住民が共に暮らしやすい
地域づくりについて、皆様のご意見をぜひ
お聞かせください。



実践計画の目的

- 目標：外国人が地域社会で自己発信でき、地域住民と対等に生活する環境づくりの支援

在住外国人が地域住民とご近所付き合いができる関係が、近い将来県内の各地でできている。

- 解決したい課題：茨城県内の日本語教育空白地域の解消

地域日本語教育活動の周知および支援者を増やし、支援者同士（支援団体・行政・機関）の情報や課題の更なる共有と情報交換ができ、支援者同士がつながり合う環境づくり。

- 解決するために：新規参加者や支援者同士が話し合う場や機会づくりのための働きかけ

連絡会議や日本語支援者養成講座を実施し、支援者同士がつながり合う機会をつくる。

活動計画と内容

月	活動計画	考えたこと・行ったこと
8月	・行政職員対象の地域日本語教育連絡会議の実施 ・形態：各ブロック/オンライン	・県南ブロック職員参加者数：14人 ・行政職員と外国人との意見交換、行政職員同士の意見交換を行う。
9月	・支援者対象の地域日本語教育連絡会議の実施 ・形態：各ブロック/対面	・県南ブロック支援者参加者数：25人 ・地域日本語教室から広がる可能性をテーマにワークショップ形式で実施
10月	・日本語教育支援者養成講座の講座コーディネーターを担当	・講座（全5回）の流れ及び内容を各回の講師と調整した。
11月	秋の日本語支援者養成講座の実施 （空白地域対象） 形態：オンライン	受講者数：34人（定員：30人） 第4回講座では、一人の支援者の立場で講師を務める。
12月	・対象とした空白地域の受講者と親睦会の実施 - 形態：対面	・対象地域在住の受講者と県職員・協会・地域日本語教育推進員と講座コーディネーターで実施した。
1月	・冬の日本語支援者養成講座の実施（全県対象）オンライン	・秋の講座とほぼ同じ内容で、対象を全県として講座（全5回）を実施する。
2月	・茨城県地域日本語教育の体制づくり推進事業 年度報告会	・オンラインで報告会を実施する ・報告項目の内、養成講座の報告を担当する。

8月 地域日本語教育関係者連絡会議 (行政職員対象)

- 開催形態：県内を4地域に分け、オンラインで実施
- 参加者数（行政職員）：4地域合計 53名
- 内容 ブレイクアウト ルームに分かれて実施
 - (1)行政職員と地域在住外国人との意見交換
 - (2)行政職員同士の意見交換

9月 地域日本語教育関係者連絡会議 (地域日本語教室支援者対象)

- 開催形態：県内を4地域に分け、対面で実施
- 参加者数（支援者）：4地域合計 84名
- 内容 ワークショップ形式
 - テーマ(1) 私が地域日本語教室に参加する理由
 - テーマ(2) 私が「こまったなあ〜」
 - テーマ(3) 地域日本語教室から拡がる可能性

地域日本語教育関係者会議から見えてきたこと

- 自治体と日本語教室との連携
- 近隣地域の連携
- ボランティア同士をつながり
- 行政や各種団体とのコミュニケーション作り



秋の日本語教育支援者養成講座

1. 日程（全5回）

オンライン：各金曜日 午後7時半～9時半まで1講座を実施

1. 応募者数等

応募者38名

受講者34名（1回以上参加した人数）

- ・未経験者 22名 経験者 12名
- ・20代以下 2名、30代～50代 23名、
60代以上 9名

8割以上出席者29名

2. 講座の内容

【 事前動画の視聴 】

受講者は、各回の受講前に、約40分間（20分×2本）の事前動画を視聴してから参加。

なお、各講座はオンライン・ライブで120間実施。

一方的な講義ではなく、グループワークを重視した講座

新しい茨城
高萩市・行方市のための
**日本語支援を
考える会**

令和4年度
11/11(金) 開講
19:30~21:30
(初回のみ、19:15開始)
各回40分の事前動画視聴があります

オンラインZoom開催

**外国人も地域の仲間！
いっしょにつくる これからの茨城**

各回の日程と内容

茨城に暮らす外国人が増えてきています。
外国人とどのようなコミュニケーションを取っていけばいいでしょうか？
きっかけを作るための具体的なアクションについて考えます。

第1回 11/11 (金) 外国人も地域の仲間なのだ
～私のまちの多文化共生～

第2回 11/18 (金) コミュニケーションの手段は日本語だけ？
～地域日本語教室を再考する～

第3回 11/25 (金) 気持ちを伝えたい！わかりたい！
～歩み寄りのための方策～

第4回 12/2 (金) 楽しくなくちゃ、動けない
～空間・時間を共有する場への挑戦～

第5回 12/9 (金) 地域でいっしょに暮らそう
～外国人と協働のまちづくり～

令和4年度茨城県「地域日本語教育の体制づくり事業」(文化庁採択)

主催：茨城県、(公財) 茨城県国際交流協会
後援：行方市、高萩市教育委員会



外国人も地域の仲間！いっしょにつくる これからの茨城

講座内容：「**多文化共生**」「**相互理解**」を柱にした日本語支援について学ぶ。

- ・ 1回から5回までの**連続講座**とし、
受講後に地域日本語教室での活動をイメージできる
- ・ 受講者は、各回の受講前に、**事前動画**（約40分）を視聴してから参加
- ・ オンライン・ライブ講座は、一方的な講義ではなく、
グループワークを主体に構成
- ・ 受講者は受講後にふり返りを提出し、掲示板で全員の**ふり返りを共有**

講座講師：県内で地域日本語教育等を実践している日本語専門家

講座サポーター：茨城県国際交流協会、茨城県女性活躍・県民協働課

新しい茨城 高萩市・行方市のための 日本語支援を考える会

第4回

楽しくなくちゃ、動けない

～空間・時間を共有する場への挑戦～



講師 蔭木 隆

講座の内容

1. 動画1の振り返り

～茨城県 地域日本語教育体制づくり～

2. 動画2の振り返り

～海外・外国人との関わりの中で気づいたこと～

3. みんなで考えよう

～目指す日本語教室のコンセプト～



私のこれまでの活動での「気づき」と「変化」

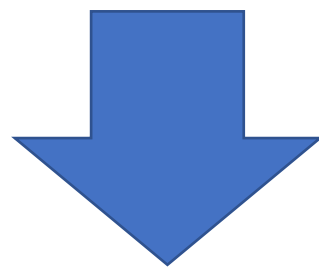
- 外国人のための日本語教室 ⇒ みんなのため（居場所）
- 日本語を外国人に教える ⇒ お互いに学ぶ（対等）
- 学習者が来なくなる ⇒ いつでも来ていい（安心）
- 支援者がほぼ同年代 ⇒ いろんな人の参加（多様な仲間）
- 行政からの活動費援助 ⇒ 共に活動する（協働）



楽しむ・みんなが主人公・無理をしない



日本語教室に参加する仲間（学習者・支援者）の
目的や動機は さまざま



どんな教室が良いのだろうか？

考えてみよう！

どんな日本語教室を作ろうか



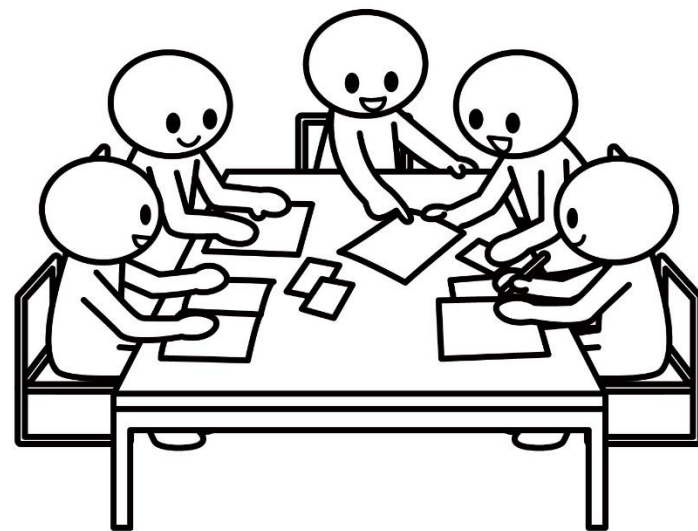
グループワーク ①

あなたは、
「何のために」活動しますか？



グループワーク ②

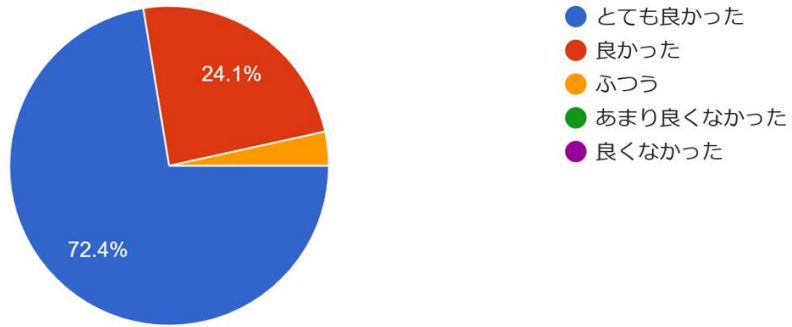
地域で目指す
日本語教室のコンセプトについて
考えてみよう



秋講座 ふりかえり

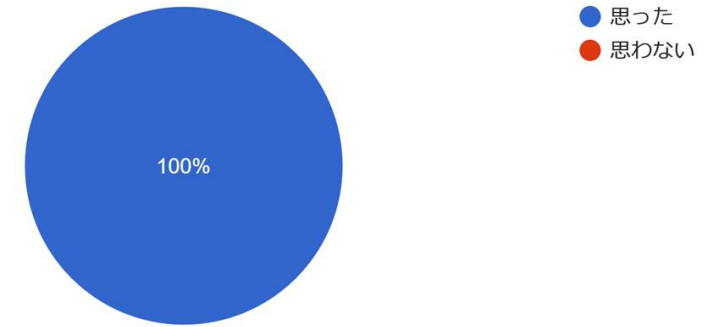
質問 1：連続講座の内容はいかがでしたか？

29 件の回答



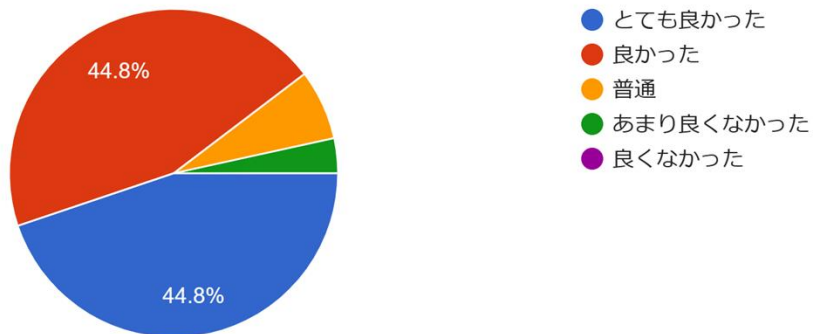
質問 7：講座受講により、自分ができること具体的な行動につなげようと思いましたか？

29 件の回答



質問 8：受講前の期待に対して、いかがでしたか？

29 件の回答



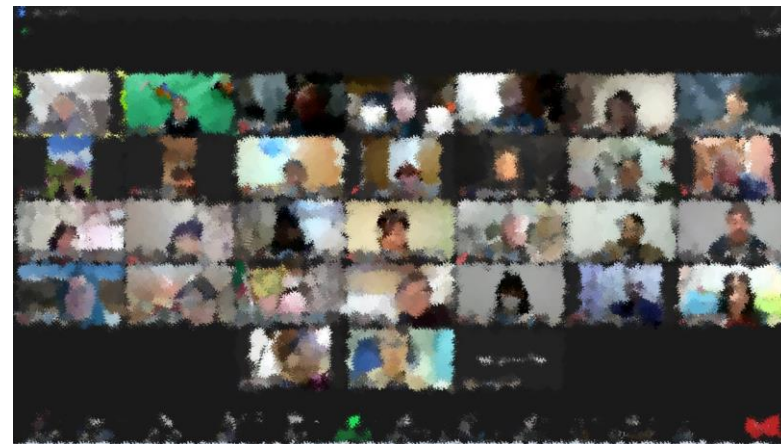
講座受講により、自分ができるところ具体的な行動につなげようと思った人

100%

講座番外編 その1 「つなぐ会」

目的：過去の修了生に活動を紹介してもらう場

実施日：12月16日（金）19:30～21:00



協力参加団体（10団体）

- ・オルビス（水戸市）
- ・古河市国際交流協会（古河市）
- ・ばらの会（常陸大宮市）
- ・国際交流友の会さ・か・い（境町）
- ・城里町日本語ひろば（城里町）
- ・サークルあい（坂東市）
- ・フレンドシップいしおか（石岡市）
- ・八千代町国際交流YIFA（八千代町）
- ・かすみがうら市国際交流協会
- ・にほんGO！（五霞町）
- （かすみがうら市）

講座番外編 その2 「会ってみっ会」

目的：高萩市、行方市での受講者の対面交流会

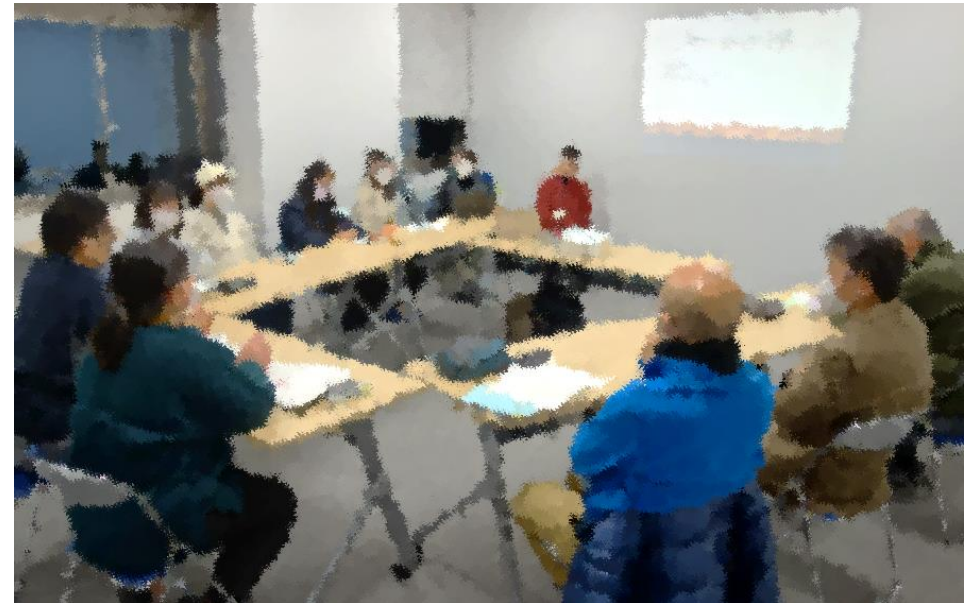
実施日：

・高萩市 12月19日（月）17:30～19:30

受講者4名、市職員2名、スタッフ5名

・行方市 12月22日（木）17:30～19:30

受講者5名、市職員2名、スタッフ5名



冬の日本語教育支援者養成講座

1. 日程

各日曜日に午前に1講座、午後に1講座

2. 応募者数等

応募者37名

受講者33名（1回以上参加した人数）

8割以上出席者25名

3. 講座の内容

秋の講座とほぼ同じ内容

【 事前動画の視聴 】

受講者は、各回の受講前に、約40分間（20分×2本）の事前動画を視聴してから参加。

なお、各講座はオンライン・ライブで120間実施。

新しい茨城
私たちの地域のための
**日本語支援を
考える会**

令和5年
1/22 日 開講

オンラインZoom開催

各回40分の事前動画視聴があります

**外国人も地域の仲間！
いっしょにつくる これからの茨城**

茨城に暮らす外国人が増えてきています。
外国人とどのようなコミュニケーションを取っていけばいいでしょうか？
きっかけを作るための具体的なアクションについて考えます。

各回の日程と内容

- 第1回 1/22 (日) 外国人も地域の仲間なのだ
9:45~12:00 ~私のまちの多文化共生~
- 第2回 1/22 (日) コミュニケーションの手段は日本語だけ？
13:00~15:00 ~地域日本語教室を再考する~
- 第3回 1/29 (日) 気持ちを伝えたい！わかりたい！
10:00~12:00 ~歩み寄りのための方策~
- 第4回 1/29 (日) 楽しくなくちゃ、動けない
13:00~15:00 ~空間・時間を共有する場への挑戦~
- 第5回 2/5 (日) 地域でいっしょに暮らそう
10:00~12:00 ~外国人と協働のまちづくり~

令和4年度茨城県「地域日本語教育の体制づくり事業」（文化庁採択）

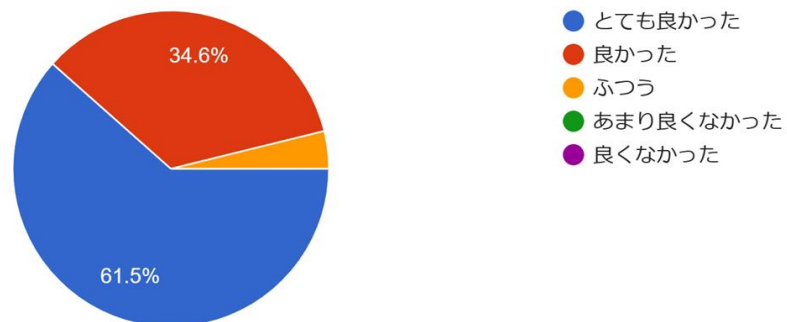
主催：茨城県、（公財）茨城県国際交流協会

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

冬講座 ふりかえり

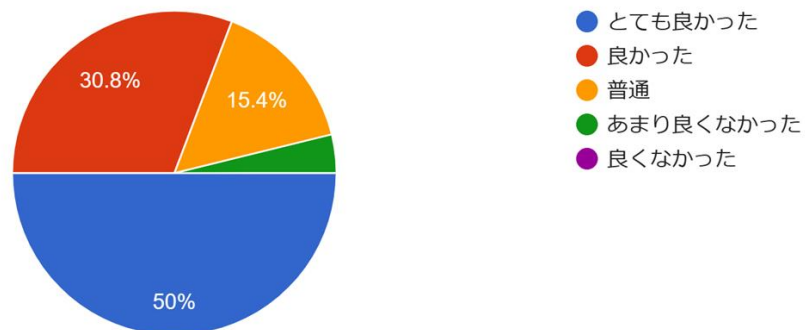
質問1：連続講座の内容はいかがでしたか？

26 件の回答



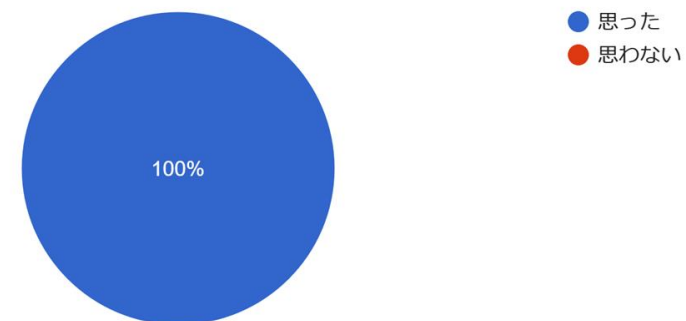
質問8：受講前の期待に対して、いかがでしたか？

26 件の回答



質問7：講座受講により、自分ができることで具体的な行動につなげようと思いましたか？

27 件の回答



講座受講により、自分ができることを
具体的な行動につなげようと思った人

100%

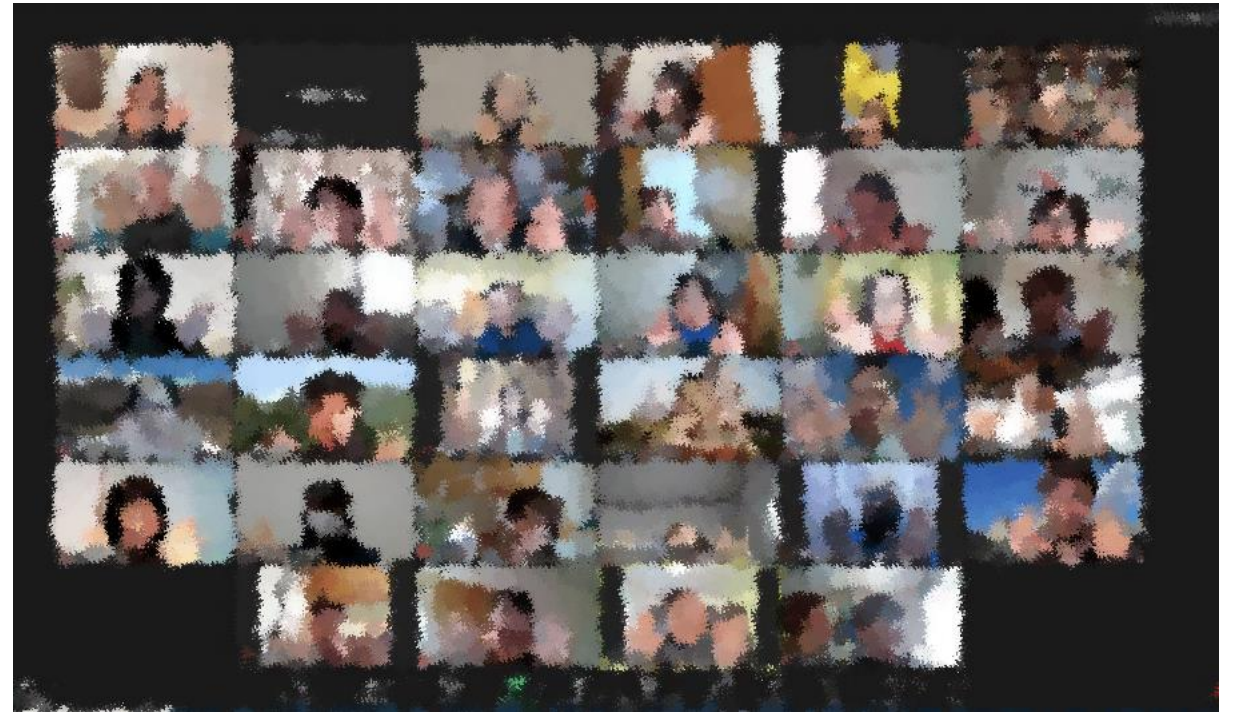
講座番外編（その3） 「OB会」

目的：3年間の「日本語支援を考える会」受講者を対象に交流を深め、
茨城県の地域日本語教育の「これから」に目を向ける。

実施日：2月5日（日）14:00～15:30

オンライン（Zoom）

内容：・ 支援者養成講座3年間の取り組み
・ 地域日本語教育に関する
テーマごとのグループセッション





つながり

活動のふりかえり

- 活動を通して、日本語教育推進員、協会関係者、県職員、そして受講者として参加された自治体職員、支援者等の多くの方々とながりを作ることができた。
- 受講者が各地域の活動の核となり、地域日本語教育体制づくり活動支援を今後とも積極的に行っていきたいと思います。

今後に向けた活動の課題

- 地域に寄り添った日本語支援とは何か。
- 日本語支援者の役割
- 地域での連携





**楽しくなくちゃ、
動けない!!!**